

笹川保健財団 地域啓発活動助成

2021年09月13日

公益財団法人 笹川保健財団

会長 喜多悦子 殿

2020年度地域啓発活動助成
活動報告書

標記について、下記の通り活動報告書を添付し提出いたします。

記

活動課題

医療ボランティアの力で支える地域共生

活動団体名：第二協立病院 I FOR YOU Japan

活動者（助成申請者）名：羽多野裕

1.活動の内容・実施経過

コロナ禍の影響により当初予定していた対面での実施が困難となり大幅な計画の修正を余儀なくされた。がんサロンについては感染者数の増加が抑えられていた2020年11月に1度対面での勉強会を行ったが、以降はZOOMでの開催となった。多職種勉強会についてはZOOMでのオンライン方式に切り替え、2ヶ月に1度程度の頻度で開催した。以下にこれまでの実施概要を示す。

①がんサロン・遺族サロン

1-1:対面式のサロン

実施日：2020年11月8日(日)13時30分～16時00分

場所：みのお市民活動センター

概要：41人の乳がん患者および家族が参加。ボランティアのバイリン演奏で幕を開け、乳腺外科医の相原医師によるレクチャー。その後は体操、座談会という構成。参加者からは有意義であったとの概ね好意的な感想あり。



1-2: オンライン方式でのサロン

実施日：2021年5月16日(日), 6月6日(日), 7月18日(日), 8月1日(日)

概要：ZOOMを用いたオンライン上でのがん患者サロンおよび遺族サロンを実施。医療者ボランティアの数に比べ、患者・遺族の参加は数名と対面でのサロンに比べると少数にとどまったが参加した方からは好意的な意見をもらうことができた。



参考資料：<https://www.facebook.com/IFORYOUJAPAN>

②多職種勉強会

実施日：2020年5月30日(土), 2020年10月10日(土), 2020年12月17日(木),
2021年2月18日(木), 2021年4月22日(木), 2021年6月24日(木),
2021年8月19日(木)

場所：オンライン形式(ZOOMおよびYou Tube Live)

概要： 時事的な話題、地域での話題（コロナ禍における地域連携、嚥下を学ぶ、等）についてオンライン上で講義およびグループディスカッションを行った。各会とも40人ほどの参加者があり職種も医師、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカー、ケアマネジャー、理学療法士など多様であった。それぞれの立場で抱えている課題や問題を共有し顔の見える関係づくりの維持に貢献したと考える。



2.活動の成果

コロナ禍で分断されてしまった医療者と患者・家族とのつながりや医療者同士のつながりを、ある程度回復することができたと考える。人とのつながりを回復させた意義としては、①誰かに話を聞いてもらう（傾聴してもらう）場、また②同じように苦しんでいる仲間がいることを知る（ピアサポート）場、という機会を提供できた点で、社会的なインパクトとして寄与したと考える。

3.今後の課題

オンラインに親しんでいない高齢世代は参加が困難であった点が課題として挙げられる。サロンを必要とする人たちのニーズをもれなく救い上げるためにも、完全にオンライン化するのではなく、感染対策を行いながら対面方式を併用するなどの工夫について検討が必要である。

4.活動の成果等の公表予定（学会、雑誌）

日本緩和医療学会学術大会や日本がんサポーターティブケア学会学術集会等での発表を予定している。